

ドキュメンタリー映画「ザ・思いやり」

関西初上映

一人のアメリカ人が米軍への思いやり予算の実態を映画化…衝撃の問題作！



日本の経済が困難な状況の中で、日本人がここまでアメリカ軍を思いやらなければならないのでしょうか？ 34年以上もの間、アメリカとの条約においては一切義務付けられてない「思いやり予算」は、日本人が自ら働いて支払っている税金からアメリカ軍へ34年間で6兆円以上が投入され、年間、米兵一人当たり1300万円という膨大な額を支給し、アメリカ軍人の贅沢な生活を支援するためにほとんどが使われているのです。

この映画では、米軍への「思いやり予算」の不条理さと矛盾を提示し、様々な視点から日本国民に問いを投げかけていきます。



知ッテイマスカ？

日本の税金が在日米軍のために使われていることを

在日米軍家庭のための住宅、小・中学校、教会、銀行、ゴルフ場、マクドナルドなどの施設に税金が使われていることを。

電気、水道、ガス料金は使い放題、遊びでも有料道路料金がすべてタダだということを。

米兵による凶悪・暴行事件の賠償金にも使われていることを。

6兆円を超えるわたしたちの税金がすでに使われていることを。

監督プロフィール:Leland Buckley

リラン バクレー (1964年アメリカ生まれ) テキサス州ヒューストン出身1980年、高校1年生の時に初めて来日し埼玉でホームステイ。歴史を専攻し高校の社会科の教員資格を取得。アメリカで大学院修了後、日本の大学院で文部省の大学院研究員として日本文学を専攻。1995年に天野文子氏の広島原爆日記を英訳し、原爆投下50年に、アメリカに天野氏と数人でアメリカ各地を訪ねし、テレビ、ラジオ番組等で原爆廃止をアピール。他にも、地産地消、食糧やエネルギー自足に興味を持って活動。

「ザ・思いやり予算」ドキュメンタリー映画を作成中。2013年の秋に公開予定。青山学院大学で英語講師。英会話スクール経営。2013年夏から、矢白別演習場から普天間まで、6年にかけて歩く計画。神奈川県在住。家族は妻、長男、次男の4人。

12月18日(金)

◎18:30～20:30 (18:40上映開始) ◎吹田・男女共同参画センター

バクレー監督のトークあり 資料代 500円

Tel 06-6388-1451

【主催・大阪平和委員会 Tel 06-6765-2840】

